

第4回教育委員会所管社会教育施設指定管理者選定委員会の結果

1. 日 時：令和8年1月16日（金）9:30～12:00

2. 場 所：岩手県庁 10階 教育委員室

3. 出席者：選定委員 浅沼道成

新山正智

林謙志

森川静子

山下泰幸

事務局 総括課長 藤井茂樹

生涯学習担当課長 平野朋子

主任主査 村松純子

主事 小野寺大地

申請者

県南青少年の家 公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団（5名）

陸中海岸青少年の家 公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団（4名）

県北青少年の家 公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団（5名）

4 会議（審査）結果

(1) 岩手県立県南青少年の家 (500点満点)

選定の可否	団体名	得点
可	公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団	416

(講評内容)

公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団は、現行の管理受託者として安定した施設管理を行ってきた実績を踏まえ、適切な対応を継続することで今後も安定した管理運営が期待できること、サービス向上や地域貢献に向けた努力がなされている点が評価された。

なお、選定委員からは、利用者ニーズの変化への対応が課題として指摘され、受託者として利用状況等の現状に対する詳細な自己分析を行い、その結果を組織全体で共有し具体的施策に反映させる仕組みづくりが必要との意見が出され、更なる取組が必要と考えられる。

(2) 岩手県立陸中海岸青少年の家 (500点満点)

選定の可否	団体名	得点
可	公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団	411

(講評内容)

公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団は、現行の管理受託者として安定した施設管理を行ってきた実績を踏まえ、適切な対応を継続することで今後も安定した管理運営が期待できること、地域貢献や利用促進に向けた地域のシニア層の利用拡大の取組が評価された。

なお、選定委員からは、利用促進に関する具体的な方法の検討が課題として指摘され、受託者として利用状況等の現状に対する詳細な自己分析を行い、その結果を組織全体で共有し具体的施策に反映させる仕組みづくりが必要との意見が出され、更なる取組が必要と考えられる。

(3) 岩手県立県北青少年の家 (500 点満点)

選定の可否	団体名	得点
可	公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団	421

公益財団法人岩手県スポーツ振興事業団は、現行の管理受託者として安定した施設管理を行ってきた実績を踏まえ、適切な対応を継続することで今後も安定した管理運営が期待できること、施設の特長であるスケート場を活用した氷上スポーツの振興により地域貢献が図られている点が評価された。

なお、選定委員からは、引き続き利用促進への取組が求められたほか、受託者として利用状況等の現状に対する詳細な自己分析を行い、その結果を組織全体で共有し具体的施策に反映させる仕組みづくりが必要との意見が出され、更なる取組が必要と考えられる。

5 会議録（プレゼン後の質疑）

【県南青少年の家】

(委員)

プレゼン資料 p.14 の施設の利用促進 (2) 利用者数、目標値は、利用者別構成の比較がされていて、非常に興味深い資料である。説明のとおり、一般・保護者利用が増えてるということだが、こういう利用者の構成内訳の推移が、収支に与える影響について、どのように分析をなさってるか。また、今後の構成割合の推移をどのように見込まれているか。

(申請者)

施設管理費への影響はそれほど大きくないと考えている。使用料を徴収しているが、条例により、小中学生は無料とされている。一般が増えてくればその分の収益は見込める。

(委員)

コスト面の影響はどう分析しているか。

(申請者)

利用者の構成の変化はコストが大きく変わることはない。清掃業務、給食提供業務、施設メンテナンス等は外部業者へ再委託しており、その分の経費が物価上昇により、指定期間中固定されている指定管理料を追い越すのではないかということが心配される。

(委員)

指定管理費の年額が同額であることは、指定管理者制度の大きな問題と認識している。一方で、私もこうした施設に関しては素人だが、資料を見たときに一般の方と子どもさんとでは食事の量やメニューが変わることはあるのか。施設の性格上、一般も同じメニューでも利用者に理解はしてもらえるとして、果たして一般の方を増やしていくこうとするときにその対応でよいのか。

確かに青少年、学生さんたちが泊まる施設というイメージも確かにあるが、そこを払拭して、施設の受け入れ体制も整っているので、収入面では一般利用の方が収入増につながるので一般利用の増を目指すとする場合に、利用する相手が変われば、やはりその対応の中身は変わって

くると思うので、そこに対応していくときに、現状を具体的に分析することは今後の計画立てるために必要と思うがどうか。

(申請者)

ご指摘を頂戴した。考えていることとしては、客層が変わってくるが、例えば、食事メニューは基本的には学校の給食をイメージしている。あくまで教育施設で公の宿を目指してるものではないため、一般の方には給食的なメニューを懐かしんでもらうというコンセプトで提供している。ただし、量が少なかつたりおかげの種類やサイドメニューを増やすなどの工夫は食堂業務の委託業者と工夫していかなければならないと思っている。

(委員)

考え方としてはありだと思う。一般の旅館ではないので、一般の方も食事内容は子どもと同じメニューで、量などの面で配慮する。こうした場合、先ほどふれられた再委託料は今回の指定期間中の3年間ずっと同額としているが、再委託業者も当然ながら物価増に苦しんでいる中で、サイドメニューを増やしたりとなれば委託業者側もその分の経費を増額してもらわないとという事情もでてくる。こうした現状分析を、発注する側も踏まえていかなければならない。その上でコスト分析をして、このプランで進めるために、やっぱりこの指定管理料では厳しい、というところに繋がってくるんじゃないかなと私は思っている。

(委員)

一般・保護者の利用が増えてきてるが、その利用内容は何か。宿泊ではないのではないか。

(申請者)

宿泊利用は一部のみで、一番多いのは子どもと一緒に来る保護者になる。

(委員)

傾向として、今まで想定していなかった一般・保護者が増えてきている状況だと分析しているということ。

(委員)

利用者ニーズの把握ということで、利用者アンケートを実施されているが、回答内容はいいことばかりではなく悪いこともあると思うが、それに対する分析・対応策は考えられているか。一番大きい要望は何か。

(申請者)

一番多いのはエアコン設置要望。猛暑期間中には何とかしてくれといったコメントも多数ある。今年度からは、食堂を24時間冷房にして、夜間も含めたクールダウンエリアとして活用している。

(委員)

解決のための対応策は立てられるか

(申請者)

粘り強く予算要望をしていく。

(委員)

エアコン要望の他には何かあるか。小さいことでもよい。

(申請者)

時計の遅れの指摘など。職員対応に対しては大変良い評価をいただいている。

(委員)

利用促進のところで、収入の増には一般利用の増がポイントということで、いろんなことが目まぐるしく変わる時代であり、学ぶのは子どもだけではないので、大人向けの研修や子育て

セミナーなど、宿泊が伴えばなおよいかと思うが、そうした開催も有効ではないか。

(申請者)

昨年度から、地域公民館組織や市町村生涯学習関係機関などからの要望を受けて所長講演も実施している。今年度は38回実施。受講者も1,000人に上る。

【陸中海岸青少年の家】

(委員)

説明の中で人工芝を利用したとあったが、施設に人工芝があるのか。

(申請者)

施設にはないが、山田町の施設をお借りして実施したもの。

(委員)

震災伝承プログラムを作られたとのことで、大変すばらしい取組だが、どちらに提供されるか、利用者だけへの提供か。

(申請者)

内容としては、山田町の、主に船越小学校が被災したこと、青少年の家にお世話になったことをプログラムとして、3年前の職員が施設内でできるものとして作成した。

現在は、来所でも出前講座でも提供できるようになっている。今のところ、申込のあった利用者のみへの提供となっている。

(委員)

新規利用者の割合は年間どのくらいか。それを呼び込むために何か対策・方策を講じているか。

(申請者)

件数及び利用人数とも、毎年減っている。ここ3年間で年5%ずつ減っており、人数も500～1,000人減少している。一番減っているのは、小中学校の宿泊及び、日帰り利用。新規利用として、新しく出てきたのが説明にもあったシニア高齢者団体の利用と、子ども会の利用がだんだんと復活してきたと感じている。幼保の利用は、出前・来所ともに安定して増えてきている。今やっていることは、出前講座の件数は増えてきているので、出前から来所利用へ結びつけるために丁寧な説明とPRに力をいれている。

(委員)

施設管理の効率的な管理運営についての具体策は。

(申請者)

業務の効率化と人件費の抑制として、施設・敷地内の日々の日常点検を、短時間でも行うようにし、ウォークラリーコースなどを回って、異常個所をいち早く発見して、軽微なうち自前修繕に結びつけるなどの、まず、効率化を図っている。

また、電話料金が増加傾向であったが、学習相談を丁寧に行っていった影響もあったことから、今年度からマチコミメール（無料のメール連絡アプリ）を活用して電話料削減と職員の時間削減を行った。

(委員)

人件費の抑制というのは、3年間の支出計画の人件費額は不変ですので、見た目の金額ではなくて、そういう効率化を図ることによって、金額面ではない人件費の抑制を図るということで、1人当たりの稼働効率・生産性を上げるという意味での人件費の抑制というふうに捉える

しかないか。

(申請者)

指導員も含め1人が抱えてる業務量がかなり多くなっていたため、点検の効率化、アプリの活用などによって、1人当たりの業務時間・超勤を減らし、次の事業の準備時間に振り分けられるようするということでの人件費抑制について職員に伝えている。

【県北青少年の家】

(委員)

施設自体の大きな特徴であるスケート場の管理は大変だと思う。時間区分を変更されているとのことだったが、平日の午後の利用状況はどうか。

(申請者)

数名利用という実情。昨年からは、八戸のフィギュアスケート団体の利用も受入れており、フィギュアタイムを設けて、エリアをある程度定めながら、一般利用者と一緒に利用できるよう工夫して、利用者数が若干増えてきている。

(委員)

資料では営業日は9時から夜までずっと開いてる状態のようで、利用者が少ない時間帯は閉めたらいいのではとも思うが、何か考えはあるか。収支的に問題があるのではないか。

(申請者)

9時からは地域のスポーツ団体の利用があり、午後3時までは地域の学校利用がほぼ毎日入るので、実際に少ない時間帯は午後3時から6時までの数時間である。

(委員)

いわゆる組織内の風通しについて、普段の現場の従事員の意見をしっかり吸い上げて、コミュニケーションを取って具体化し、組織内で揉んで全従業員に指示をして実際の行動につなげていくという意味での風通しについて、現在の体制、問題点と改善ポイントについて、青少年の家の中のレベルと、他の施設間との状況、事業団本部との関連について、簡潔にお伺いしたい。

(申請者)

毎日朝会を実施し情報を共有し、コンプライアンスも含めて、必ず所長が毎日最後に状況変化や課題について話をしている。冬期間はシフト割のため朝に全員が揃わないので班ごとの打ち合わせ等で共有している。所内では、コミュニケーションはよく取れてると思っている。

何かあればすぐに相談できるし、同じ職レベルでの相談もできる。各施設の所長同士でも相談しながら進められている。宿泊連という県内組織もあり、かなり詳しくお互いの課題を共有している。

(申請者)

本部との情報共有については、本部の総務企画課に青少年の家担当がおり、青少年の家の情報は常にそこに挙げてもらう体制になっている。例えば、施設で事故が起きた際は、それを各施設に事務局から共有し注意喚起をするというような形と取っている。四半期に1回施設長会議を実施して情報共有している。

(委員)

施設内の話に戻るが、朝会を行われているとのことだが、日々の業務で若い人や現場で実際

に作業している人の意見を吸い上げるには、朝会は時間が限られてることもあって上意下達通にとどまりがちな側面もあるかと思うが、職員からの意見の吸い上げという点の取組は他にあるか。

(申請者)

朝会の後に班ごとの打ち合わせを実施しており、意見交換ができる場となっている。また、利用促進会議を開催しており、様々な意見を吸い上げて検討している。

(委員)

最近の会議の中で、若手からの意見を取り入れて実現した例を一つ伺いたい。

(申請者)

クマ対策で、職員からの提案を受けて施設の対策に取り入れた例があった。

(委員)

収入増に向けた取組みとして施設の特徴であるプラネタリウムの活用も一案と思うが、プログラムの工夫などあるか。

(申請者)

最新プログラムの投影はできないが、季節ごとに配置を変えているほか、小学4年生と6年生の学習単元に合わせた学習投影を実施しており、プリント・評価までできる形で提供し、授業時間の短縮にもつながるとして好評を得ており管内のほとんどの小学校で取り入れていただいている。また、奥中山天文台の職員の投影をイベントの際に実施するなどの工夫もしております、職員も投影について勉強しながら実施している。

【3 施設の候補者選定について協議】

採点、協議の結果、いずれの施設も岩手県スポーツ振興事業団を指定管理者の候補者として適当と認めると決定した。

以上